

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	リーディング・インダストリーの変遷と第2期地方創生のあり方 ～地域の持続可能性を左右する産業の地理的配置～				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・特任教授	氏名	西野 勝明
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	経営情報学部・特任教授	氏名	西野 勝明

講演題目

リーディング・インダストリーの変遷と第2期地方創生のあり方
～地域の持続可能性を左右する産業の地理的配置～

研究の目的、成果及び今後の展望

1. 目的

地方創生は5年間の第1期が終わったが、東京一極集中の流れを止める目標は達成できず、むしろ東京一極集中を加速させる結果となった。本研究では、東京圏への一極集中の経済的な要因の中で、地域の産業構造に大きな影響を与える「リーディング・インダストリーの生産要素等の地理的配置」について分析し、第2期地方創生への提言と研究成果を年度内に出版予定の本に反映させる。

2. 成果

- 19世紀後半から我が国の産業構造は変遷してきたが、その要因は、農業、軽工業（繊維等）、重化学工業（鉄鋼、石油化学等）、加工組立型産業（輸送用機械、電気機械等）、情報関連産業（コンピュータ、携帯電話、ソフト等）といったリーディング・インダストリーの発展と変遷であった。
- こうしたリーディング・インダストリーの変遷は、人口の地理的配置に大きな影響を与えたが、特に近年の人口の東京一極集中と地方の人口減少にも大きな影響を与えている。
- 今までのリーディング産業の人口規模による立地特性を分析した結果、次のように分類できる。
 - (1) 人口規模に応じて立地する産業群
小売業、電気・ガス・水道業、生活関連サービス業など
 - (2) 人口規模に逡増して立地する産業群
専門サービス業、情報サービス・調査・広告業、教育、通信業、不動産業など
 - (3) 人口規模に逡減して立地する産業群
農林水産業、食料品・たばこ製造業、電気機械器具製造業、精密機械器具製造業など
 - (4) 人口規模の大小とは必ずしも対応せずに立地する産業群
鉄鋼業、化学工業、繊維工業、家具・輸送用機械器具製造業、学術研究機関など
- こうした人口規模による産業特性とリーディング産業の変遷を照合すると農業がリーディング産業であった時代には、農村部に人口が多く貼りついてしたが、軽工業、重化学工業、加工組立型産業がリーディング産業であった時期には、全国の都市部（4大都市圏を含む）に多くの人口が定着した。しかし、2,000年代に入り知識集約的な産業である専門サービス業、情報サービス・調査・広告、通信業、不動産業、教育などが発展するにつれて東京圏への人口の定着が進んでいる（大阪圏は減少・横ばい、名古屋圏と福岡圏は微増）。
- 今後のリーディング産業の育成を考える際に、知識集約的な産業を東京圏以外で発展させる方策が重要であり、それは知識集約的な産業集積を各地域に発展させることが最も有効である。

3. 今後の課題

- 知識集約的な産業集積を各地域に発展させるには、高度な教育・研究機関を産業集積の核として配置しなければならず、そのためには既存の国立大学と公立大学、試験研究機関などの再編成が不可避であり、その際の主体は都道府県と政令市の自治体を中心にならざるを得ないが、そこへの制度改正、分権・財源を含めた行財政改革そして工程表の作成などが早急に求められる。

※本研究の成果を3月に刊行した西野勝明（2022）『構造的変革期の地域マネジメントと地域創生』時事通信社の第2章に盛り込んだ。